

消 息

谷本寛治先生のご退職にあたり

谷本寛治先生のご退職にあたり、送別の辞を記したいと思います。

谷本先生は、神戸大学大学院経営学研究科博士課程を修了され、一橋大学大学院商学研究科教授などを経て 2012 年に商学部に着任されました。それゆえに、先生と私とは同じ経営学を専門とする研究者として学会などで一緒する機会はありませんでしたが、それ以外の場面での交流は、商学部に着任されるまではそれほど多くはありませんでした。しかし先生は、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility、以下、「CSR」とする。）、経営倫理あるいは「企業と社会」などと呼ばれる研究領域の第一人者として高名でしたので、ご著書や学会プログラムを通してお名前は存じ上げておりました。

先生が商学部に着任されてからは、先生が初代会長を務められた企業と社会フォーラム（Japan Forum for Business and Society、以下「JFBS」とする。）の活動に誘っていただくなかで、色々と交流する機会を持つようになりました。JFBS は、その日本名が示すように、企業と社会の関係に関する研究をメインに行う学会ですが、従来の日本の学会とは異なり実務家の方々にも多く参加いただき、実践的な観点から研究を行うという特徴があります。同学会 HP をご覧になればお分かりのとおり、複数の企業が法人会員となっているばかりではなく、協力組織や連携組織と提携・連携することで、社会に開かれたオープンで実りある議論・研究発表を展開しています。

この学会を設立・運営されてきたことから分かりますとおり、谷本先生はいわゆる象牙の塔型の研究ではなく、現実社会と研究との関連性をつねに意識し研究をされてきたとえます。CSR、経営倫理、企業と社会など、用語はさまざまものが使用されており、近年はサステナビリティという用語がしばしば使用されますが、その根本には、企業が社会において果たすべき役割・責任に関する問題意識が常にあります。そうした企業経営における倫理的あるいは道徳的な課題を、抽象的に論じるのではなく、経営の実態に即して研究されてきたのが、谷本先生のご研究の特徴といえます。

経営学領域において、CSRあるいは倫理に関する問題意識は、1938年に著された経営学の古典、C. H. バーナード (C. H. Barnard) 著『経営者の役割』(*Functions of Executives*)に見出すことができます (もっと古い文献にその萌芽を見出す研究者もいるかもしれませんが)。そうした意味では、CSR研究は経営学の発展とともに行われてきたと言えないこともありません。しかし、CSRが経営学領域において確固たる分野として成立したのは1960年代以降といえます。じっさい、日本経営学会の大会統一論題にCSR (企業の社会的責任) という文言が最初に入ったのは、1974年第48回大会でした。1960年代に公害が大きな社会問題になり、1970年代の石油ショック、ドル・ショックなどを経て高度経済成長期が終わりを告げるなかで、CSRが社会一般の高い関心を惹いたという時代背景が、経営学研究に影響を及ぼしたといえます。

その後、世の中においてCSRあるいは経営倫理に関する関心が一気に高まったかといえそうではなく、むしろ一時期はこうした言葉が忘れ去られた、少なくとも表立っては語られない時期がありました。いわゆる1980年代後半の「バブル景気」の時代です。今となっては隔世の観がありますが、当時は株取引、土地売買などで利益を上げる財テクが是とされ、それを行わない企業や個人は機を見るに敏でない、もっといえば間抜けというような風潮が支配的でした。

こうした浮かれた時代にも、CSR、経営倫理といったテーマを一貫して追求されたのが谷本先生でした (付言すると、元商学部小林俊治本学名誉教授も同様です)。本稿執筆に際して自宅の書棚をさぐったところ、先生が2004年の日本経営学会関東部会で報告された際のレジユメを見つけました (報告タイトルは「CSRと企業評価」でした)。それを見ると、2000年代初頭の段階では、日本企業のCSRに関する意識は低く、CSRとは法令遵守や慈善事業 (フィランソロピー) というように狭く捉えられているというのが、先生のご認識でした。それから月日が経ち、今日CSR、サステナビリティなどの言葉で語られる事柄は、企業経営における基本認識となっており、小学校の授業でもサステナビリティは取り上げられるくらい当たり前の事になっていますが、当時はCSRや経営倫理などは脇に追いやられていたなかで、首尾一貫してこのテーマに関する研究・発信を続けてこられた先生の信念の強さ・慧眼には敬服するばかりです。

先生には多くの業績がありますが、その単著のひとつである『企業社会のリコンストラクション』(千倉書房刊)は、社会における企業の在り方を根本から問う体系的な著

書ということができます。ここまで、一般に流布している CSR という用語を使用してきましたが、先生が同書で提示されている基本的問題意識は、他の CSR 研究者のそれよりもはるかに広くまた根源的であり、「企業と社会のかかわり・相互作用を体系的に捉える理論体系構築」にあります。すなわち、企業を経済活動の側面からだけでなく、文化、政治、家庭生活などを含む社会の諸側面との関係において捉える理論的視座を提示しています。また同書では、経営学研究の課題に関しても問題提起をされています。実証主義科学の限界、客観主義の虚構、専門主義の狭隘、線形主義の制約という指摘は、現在の経営学研究の潮流に対する注意喚起と捉えることもできます。科学哲学におけるネオ・プラグマティズムの観点からすれば「科学と哲学の境界も曖昧である」という命題も、先生のこれらの指摘と通底しているといえます。

また研究業績一覧をご覧頂ければお分かりの通り、研究成果の海外発信に注力された点も、先生の研究活動の特徴といえるかと思います。2005 年ご自身が 50 歳頃から意識的に海外ジャーナルへの投稿等を増やしたとのことですが、近年の研究活動の国際化についても先駆的役割を果たされたといえます。それと関連して、ドイツ、台湾の大学に滞在し講義を担当された経験も数多くあり、国際的な教育活動にも従事されました。

教育者としての先生は、厳しい先生であったのではないかと思います。修士論文副査として先生が指導されている学生の修士論文をいくども審査してきましたが、その多くは完成度が高くまた必ず事例研究などによるオリジナルなデータが含まれていた点に、先生の学風が反映していたように思います。ただし、修士論文の口述試験では、意外（と言っては失礼ですが）と質問・コメントは穏やかで、むしろ学生をかばうことが多く、先生の温和な人柄がにじみ出ていたように思います。

谷本先生は心身ともに元気です、本学をご退職後も色々なお仕事をされるのではないかと推察します（最近猛暑のためやめておられるようですが、自転車通勤されていた時期もありました）。また今後も学会でお会いする機会はありますし、先生のゼミから移籍してきた博士後期課程学生の研究へのご助言も頂きたいと考えております。今般、早稲田大学退職という一つの節目を迎えられますが、先生がこれからも元気に過ごされることを切にお祈りして、私の送別の辞といたします。

以下では、先生の研究業績のうち主要なもののみご紹介致します。

谷本寛治先生業績目録（主要なもののみ記載）**主要著書**

- 『企業権力の社会的制御』千倉書房，1987.
- 『企業社会システム論』千倉書房，1993.
- 『日本の企業間関係』（共編著）中央経済社，1994.
- 『経営学概論』（共著）税務経理協会，1999.
- 『NPO と事業』（共編著）ミネルヴァ書房，2002.
- 『企業社会のリコンストラクション』千倉書房，2002，新装版 2008.
- 『SRI 社会的責任投資入門』（編著）日本経済新聞社，2003.
- 『CSR 経営』（編著）中央経済社，2004.（韓国語訳『기업의 사회적 책임, CSR 경영』, 김재현 역, 시대의창, 2011.）
- 『ソーシャル・エンタープライズー社会的企業の台頭』（編著）中央経済社，2006.
- 『CSR —企業と社会を考える』NTT 出版，2006.
- 『ソーシャル・アントレプレナーシップ—想いが社会を変える』（共編著）NTT 出版，2007.
- 『SRI と新しい企業・金融』（編著）東洋経済新報社，2007.
- 『責任ある競争力』NTT 出版，2013.
- 『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著）NTT 出版，2013.
- 『日本企業の CSR 経営』千倉書房，2014.
- 『ソーシャル・ビジネス・ケース—少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』（編著）中央経済社，2015.
- 『企業と社会—サステナビリティ時代の経営学』中央経済社，2020.
- 『研究者が知っておきたいアカデミックな世界の作法—国際レベルの論文執筆と学会発表へのチャレンジ』中央経済社，2021.
- 『わたしたちの暮らしは世界とつながっている—持続可能な地球社会をつくる』千倉書房，2022.
- 『企業に政治的責任はあるのか』中央経済社，2026.

主要論文

- “Changes in the Market Society and Corporate Social Responsibility”, *Asian Business & Management*, Vol.3, No.2, pp.151-172, 2004. (Reprinted in *Corporate Governance and Globalization*, eds.by T. Clarke and M. D. Rama, Volume Three, *Convergence and Diversity*, pp.355-375, SAGE Publications, 2006.)
- “Corporate Social Responsibility in Japan: Analyzing the Participating Companies in Global Reporting Initiative”, co-authored with K. Suzuki, EIJS Working Paper Series, No 208, Stockholm School of Economics, 2005.
- “Social Innovation Cluster in Action: A Case of San Francisco Bay Area”, co-authored with M. Doi, *Hitotsubashi Journal of Commerce and Management*, 41-1, pp.1-17, 2007.
- “Support for Working Parents: Government Policies and Corporate Responses in Japan”, co-authored with K. Suzuki & N. Atsumi, *Asian Business & Management*, Vol.7, No.3, pp.297-319, 2008.
- “A Conceptual Framework of Social Entrepreneurship and Social Innovation Cluster: A Preliminary Study”, *Hitotsubashi Journal of Commerce and Management*, 42-1, pp.1-16, 2008.
- “Structural Change in Corporate Society and CSR in Japan”, ed.by K. Fukukawa, *Corporate Social Responsibility in Asia*, pp.45-66, Routledge, 2009.
- “Does Foreign Investment Matter? The Effects of Foreign Investment on the Institutionalization of Corporate Social Responsibility by Japanese Firms”, co-authored with K. Suzuki & A. Kokko, *Asian Business & Management*, Vol.9, No.3, pp.379-400, 2010.
- “The Process of Social Innovation: Multi-Stakeholders Perspective”, Proceedings of 5th European Conference on Innovation and Entrepreneurship, National and Kapodistrian University of Athens, Greece, 2010. (Reprinted in ed.by D. Chauvel, *Leading Issues in Innovation Research*, pp.172-186, API, 2011.)
- “The Emergent Process of Social Innovation: Multi-Stakeholders Perspective”, Special Issue: Innovative Entrepreneurship, *International Journal of Innovation and Regional Development*, Vol.4, No.3/4, pp.267-280, 2012.
- “Sanpoyoshi and CSR”, eds.by Idowu, S. O, Capaldi, N, Zu, L and Das Gupta, A., *Ency-*

- clopedia of Corporate Social Responsibility*, pp.2107-2114, Springer, 2012.
- “Corporate Social Responsibility and Management Process in Japanese Corporations”,
World Review of Entrepreneurship, Management and Sustainable Development,
Vol 9, No.1, pp.10-25, 2013.
- “The Implementation of CSR Management and Stakeholder Relations in Japan”, eds.by
S. Vertigans and S. O. Idowu, *Stages of Corporate Social Responsibility: From
Ideas to Impacts*, pp.223-240, Springer, 2016.
- “Corporate Social Responsibility across Asia”, co-authored with D. K. Davidson, et al.,
eds.by J. Weber and D. Wasieleski, *Corporate Social Responsibility*, pp.73-132,
Emerald, 2018.
- “Do Multi-Stakeholder Initiatives make for better CSR?”, *Corporate Governance: The
international journal of business in society*, Vol.19 No.4, pp.704-716, 2019.
- “Corporate Social Responsibility in Japanese Corporations”, eds.by D. Poff and A. C.
Michalos, *Encyclopedia of Business and Professional Ethics*, Springer, 2022
- “Product Responsibility Disclosure: Do They Concern with Customer Privacy?”, co-
authored with Permatasari, P., Setawan, A. and Kurnia, T., *Social Responsibility
Journal*, Vol.20 Issue 10, pp.2050-2065, 2024.
- “Corporate Social Responsibility and Responsible Leadership Education”, ed.by M.
John, *The Routledge Handbook of Global Sustainability Education and Thinking
for the 21st Century*, pp.774-786, Routledge, 2025.
- “Social Enterprises Resilience during a Pandemic: Prioritizing Social or Financial Fac-
tors?”, co-authored with Putri Mega Desiana, Ruslan Prijadi, and Permata
Wulandari, *Asian Journal of Business Research*, Volume 15 Issue 4, pp.1-26, 2025.
- “Responsible Corporate Exit for Sustainable Management: Human Rights and Environ-
mental Due Diligence in Fragile and High-Risk Areas”, co-authored with K.
Namba, eds.by P. K. Sikdar and S. Mukherjee, *Navigating Sustainability: Strategies
and Solutions in Business in Emerging and Developing Economies*, Springer, 2026.